



鳥は何種類いるの

およそ8600種類といわれる

鳥は、いちばん小さいものといえば、1円玉2枚分より軽く、体の大きさはおよそ3センチメートルというマメハチドリがいます。大きいほうは、体重が156キログラム（おすもうさんの賞之花よりも少し重い）、頭のとっぺんまでの高さが、274センチメートルという巨大なダチョウがいます。

こんなに小さいものから、大きいものまでいる鳥の種類は、今、およそ8600種に分類されています。この分け方は、足の形や羽毛のようす、骨の構造や体の中のしくみなどによって、27～28の目（もく）という大きい仲間分けの下に、さらに150の科に分類されています。科の中をさらに細かく分けたのが、種になります。この分類は、学者によって、少しちがってきます。

いちばん元気で、数が多いのはスズメ目

この仲間分けした中で、いちばん多いのがスズメ目で、この中には5000種もふくまれています。スズメ目の下は、ヒタキ科とカラス科に分かれていて、ふつう見るスズメの仲間はヒタキ科に入ります。つまり、スズメとカラスの仲間だけで、鳥全体の種類の60パーセントにもなるのです。カラスもスズメも、身近によく見かける鳥だということが、この数字からもわかります。環境の変化などにあわせて、鳥の仲間の進化が進むなかで、このスズメ目は、いちばん新しく現れた、いちばん進歩した鳥といえます。

種類の多いものとしては、チドリ目、ツル目、キジ目、ペリカン目、アマツバメ目、コウノトリ目、ヨタカ目、キツツキ目、ブッポウソウ目、オウム目、ハト目などがあります。

（監修・今泉 忠明）

